

## まえがき

本書は1979年朝日出版発行の *A Guide to Reading and Writing* (『文章構成法による《読解と自己表現》』) の姉妹版ですが、リーディングの部分を取り除いて、パラグラフ・ライティング中心に編集しました。従来の「英作文」は、どちらかという「和文英訳」中心の指導が主流でしたが、それだけでは学生の自己表現能力はあまり伸びないと思います。言語によるコミュニケーションの最小単位がパラグラフであるという考えに基づき、学生自身の持っている考えや感情を英語のパラグラフ構成法に従って表現することができるように教材を編集しました。

ライティングが主目的ですから、モデル・パラグラフにも簡単な「訳」をつけておきました。学生はできるだけ予習をしておいて、授業では他の学生や先生とお互いに評価し合い、ライティングの能力をさらに磨いていただきたいと思っています。

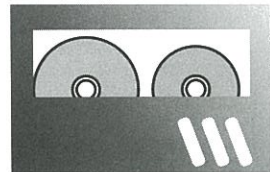
本書の出版にあたって、朝日出版社の川崎洋子氏および日比野忠氏にお世話になりました。ここに感謝の意を表します。

1996年8月

橋本光郎

### カセットテープ

全1巻  
定価(本体価格2,913円+税)



お近くの書店へご注文いただくか、  
郵便振替(00140-2-46008)で  
お申し込みください。

*On Your Way to Paragraph Writing*

Copyright © 1996 by Asahi Shuppan-sha

All rights reserved. No part of this book may be reproduced in any form without permission from the author and the publisher.

写真提供：アメリカン・フォト・ライブラリー，サンテレフォト  
イラスト：いとうりつこ

## Contents

まえがき	
<b>Chapter 1</b>	
パラグラフの書き方 .....	1
<b>Chapter 2</b>	
Examples - 例示 .....	8
<b>Chapter 3</b>	
Process & Direction - 手順・過程・方法 .....	13
<b>Chapter 4</b>	
Comparison and/or Contrast - 比較対照法 .....	18
<b>Chapter 5</b>	
Reasons - 理由 .....	26
<b>Chapter 6</b>	
Classification - 分類 .....	31
<b>Chapter 7</b>	
Definition - 定義 .....	37
<b>Chapter 8</b>	
Opinion - 見解・意見 .....	43
<b>Chapter 9</b>	
Time order - 時間的順序 .....	48
<b>Chapter 10</b>	
Space order - 空間的順序 .....	55
<b>Chapter 11</b>	
Cause-effect relationship - 因果関係 .....	61

## Chapter 1

### パラグラフの書き方

#### 1-A: はじめに

日本における外国語学習は、従来 *receiving of information* のみに片寄った一方通行的なものでした。しかも、*receiving* の聞く・読むのうち、読むことだけが強調されて、聞くことは全く無視されているといっても過言ではありません。しかし、日本も国際社会の一員として世界中に進出し、あらゆる分野で重要な役割を果たしている現在、受動的な *receiving of information* だけでなく、*giving* も積極的にしていかなければならなくなりました。そこで、コミュニケーションの本来の姿である二方通行の重要性が叫ばれているわけです。

*giving* の重要性は、国家レベルの問題だけでなく、個人間のコミュニケーションにおいても、もっと真剣に考える必要があります。民主主義国の基礎は、その国の人々のコミュニケーションに築かれているからです。そんなに大切な *giving of information* が、日本では軽視されてきたことは大変残念です。母語である日本語の言語生活においても読むこと（聞くこと？）が大部分で、自分の意見・考えを効果的に発表するための教育や訓練はおろそかにされてきたのではないのでしょうか。外国人などと共に仕事をしたり、ディスカッションなどをしていると、日本人の話し下手なことがよく分ります。これは、日本人が先天的に下手なのではなく、適切なトレーニングを受けていないからだと思えます。

#### GIVING of INFORMATION の手段

情報を受け取ったり与えたりするコミュニケーションは、ことばを使って行う *verbal communication* が普通ですが、*affective information* などは、主にことばを用いずに、ジェスチャーや顔の表情、動作などで行なわれることが多いのです。これを *nonverbal communication* と言いますが、*receiving, giving* において見逃すことはできません。

さて、*verbal communication* による *giving of information* は、話す・書くという言語活動によって行われることは言うまでもありません。話すことも書くことも、自分の意見・考えを表現する手段であることに変わりはありませんが、

話す場合は、書くときよりも時間的余裕がないという大きな違いがあります。即座に自分の考えをまとめて話すということは容易ではありません。

### GIVING of INFORMATION の基礎能力

ことばで話したり書いたりすることができるためには、まずそのことばの音・語彙・文法の基本的な運用能力がなければなりません。運用能力とは、音や文法などを知識として知っているということではなく、実際に発音をしたり、文を作ったりして自分の考えを述べることができる能力です。コミュニケーションのための基礎能力を細かく定義することは、大変むずかしい作業ですが、ここでは、ひとつの目安として、日本の学校英語の高校一年生ぐらいまでに学ぶ英語の運用能力としておきましょう。音・文法の面では、この程度で充分ですが、語彙の面で多少問題があるかも知れません。ただ、語彙数は、学習者の興味・分野などによりかなりの差がありますから、1,500 とか 2,000 という数字を挙げてあまり意味がないかも知れません。

要するに、giving of information の基礎能力とは、中学3年や高校1年の教科書に出ている英文が理解できるだけでなく、自分でも発表できる能力であると言えます。残念なことに、今の大学生や社会人の方々の中にも、それだけの基礎能力をもった人は大変少ないと思います。

しかし、基礎能力が欠けているから giving of information はできないと言っているわけではありません。基礎能力を完全なものにしてからコミュニケーションを始めようなどと考えていたら、一生かかっても英語で話したり書いたりすることなど始めることができないでしょう。外国語として英語を学び、使用していくのですから、間違いはつきものです。そのような間違いを良しとするのではなく、少しずつでも少なくしていく努力はしていかななくてはなりません。また、基礎能力がまだついていない方は、常に復習をし、最低の表現能力はつけていただきたいと思います。

### GIVING of INFORMATION の中味

話したり書いたりする表現活動で、いちばん重要なのは what to give、すなわち、information の中味・内容であることは言うまでもありません。最近はこの what を全く持っていない人がいるようですが、そんな人に表現方法の how を教えても何の役にも立ちません。自分の毎日の言語生活を分析してみて、自分にはどれだけの what の持ち合せがあるか調べてみると面白いでしょう。案外多くのことについて語り合っているかも知れません。あるいは、content information のない、affective information 中心のコミュニケーションをしてい

ることに気づくかも知れません。

“what” の選択は、いま自分に最も興味のある事物や考えにしばることです。自分が興味・関心のある事柄は、自分が最もよく知っている事柄だからです。もちろん、自分の what のレパートリーを増やしていくことも大切です。what も広く浅くというのではなく、できれば、広く深くしていきたいものです。

日本人の好む what の多くは、「教育問題」とか、「都市の公害問題」などのようにかなり大きなもので、日常の会話の中にもこのような話題がよく出てきますが、このテキストでは、できるだけ身近かな問題で、しかもその問題をできるだけ狭めて、5-6行から 12-3行程度でまとめることができるものを取り上げていきます。



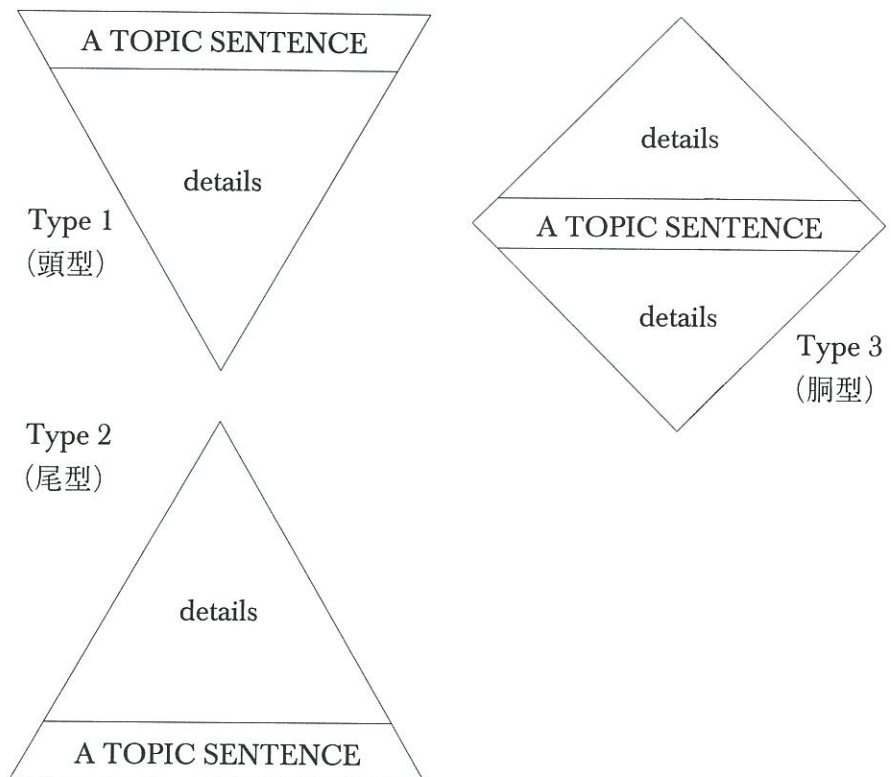
## 1-B: パラグラフの構成要素

### ■ パラグラフ

paragraph は、日本語では、「段落、文段、(文)節、パラグラフ」などと呼ばれ、ある主題をもって統一された文集合の全体である。表記上では、日本語の場合、段落の初頭を1字下げ書き始めるが、英語のパラグラフは、初頭をタイプで5文字下げる。パラグラフは、ひとつのまとまりのある考えを表わす最小単位である。

### ■ Topic sentence と Details

パラグラフは、a topic sentence (主題文) と details (主題文の main idea を support する文) で構成されている。topic sentence がパラグラフのどの位置にくるかによってパラグラフは、次の3つの型に大別される。1の topic sentence 頭型が最も典型的なもので、まずこの型に慣れておこう。



## 1-C: A topic sentence

### ■ A topic sentence と topic

a topic sentence (主題文) は、パラグラフの main idea で、これから書こうとする内容を聞き手・読み手に提示する文である。すなわち、a topic sentence は、topic (話題) と、what I'm going to say about the topic (=assertion) から成っている。

Topic sentenceの例。

- (1) One of my favorite sports is tennis.  
(topic) (assertion)
- (2) A topic sentence states what the  
paragraph is about.

### ■ Topic sentence の書き方

ひとつのパラグラフの topic sentence の idea は、ひとつでなければならない。topic sentence の1文に、2つも3つもの違った考えを盛り込むと、主題が曖昧になる。one paragraph → one topic sentence → one main idea が原則である。

次に、話の聞き手や作文の読み手に興味を起こさせるような topic を選ぶことは言うまでもないが、話し手・書き手自身が、自信をもって話せる・書ける topic を選ぶことである。

### ■ Topic sentence の例

- a. 主題文を疑問文で表現する。
  - ・ What is disco fever?
  - ・ Do you know how to make the best of your time?
- b. 主題文をアッと驚くような文で表現する。
  - ・ Every cigarette you smoke shortens your life by fourteen minutes.
- c. 主題文を直接話法の引用文で表現する。
  - ・ "You have a cavity in one of your front teeth," the dentist told me last month.

## 1-D: Details

### ■ Topic sentence を support する details

a topic sentence は、話の主題 (topic) を提示し、それについて何を話し・書くかを述べるものだが、それだけでは、自分の考えや感情を、聞き手・読み手にじゅうぶんに理解してもらうことはできない。そこで、topic sentence について、さらに説明を加えたり、実例をあげたり、理由を述べたり、ことばの定義をしたり、比較・対照したりしながら topic sentence の main idea を展開していく必要がある。これを topic sentence の main idea を support する details と呼ぶ。すなわち、main idea の *general statement* に対し、details は *specific statements* である。

### ■ Details の文の数

details は、多ければ多いほど topic sentence の内容理解を容易にするが、多すぎるとパラグラフが長くなりすぎてしまう。パラグラフは、ひとつのまとまった文章全体のひとつであるから、文章全体のバランスを考えて、適切な長さにする必要がある。そこで、details がたくさんある場合は、topic sentence を support するのに重要なものを取捨選択しなければならない。不必要な details を並べ立てても無意味である。details の文の数は、およそ 4 ~ 6 文であるが、中には、10~15 文といった長いものもある。

### ■ Details の内容

どのような内容の details を書けばよいかは、Chapter 2 から詳しく勉強していくが、要は、topic sentence の main idea を support するために適切なものを選ぶことである。details の主なものは、examples, comparison and contrast, reasons, classification, definition などである。

### ■ Topic sentence と details の例

Why do so many people want to live in big cities? One of the major reasons is jobs and higher salaries. Another is that the city offers superior entertainment, schools, hospitals, and shopping. Many people feel that these things create a cultural environment that living in the country cannot match. Also, the convenience of the public transportation systems makes it easy to get around. So, even though Tokyo, Mexico City, and New York are already overcrowded, people are still attracted to them for these reasons.

このパラグラフの main idea は「多くの人々が都会に住みたがる」で、そのあとに理由が details としていくつか挙げられている。

